

カンボジア・インド・トルコを訪ねて

永川富雄
えいかわ とみお

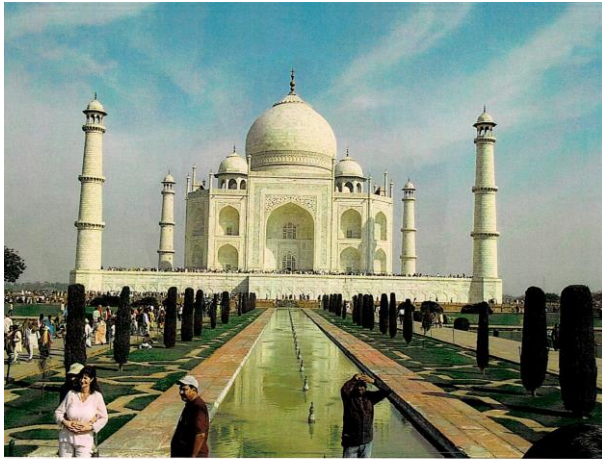
カンボジアには二〇〇八年八月八日から一二日の五日間行きました。カンボジアはアジアのなかでも、特に発展が遅れている気がしました。文盲の方々も多く政府が意図的に教育を妨げているように思いました。この寺院にも年端のいかないう子供たちがプロマイドや小物のお土産を売っていました。

インドには二〇一四年二月二六日から三月二日の六日間行きました。インド人もびつくりの諺がよくわかりました。何でもありなのかも知れません。一四億人が暮らすインド、驚きの連続でした。街から少し離れた歩道では火を焚いていて、人は平気で寝ているし、そこをバイクが縫うように走り、交通規則は都会にしか通用しないようでした。車線も何も関係

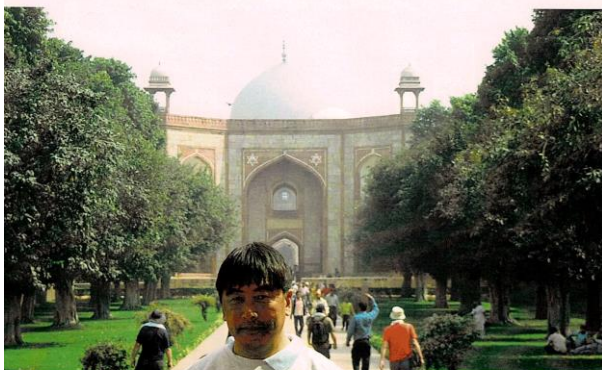
なく走る所が多々ありました。一〇〇m四方の公園で地図を見ながら休んでいましたら、いつの間にか私たち四人は一五人位に取り囲まれ、靴を磨くとか、道案内をするとか、要求をしてきました。これにはびっくりでした。経済成長の中ですが、おそらく、ごくわずかな人々にしか富は行き渡らず、多くはカースト制度の中でしか生きてゆけない現実を見た気がしました。

タージマハールは壮大で全て大理石できているとは思えない位美しい建築でした。トルコには二〇一六年四月二日から六日まで行きました。これはアジア胸部外科学会に先生と行きました。一三時間の飛行機に耐えられるか心配でしたが、無事帰りました。西洋とアジアがぶつかるころ、キリスト教とイスラム教が戦ったところで歴

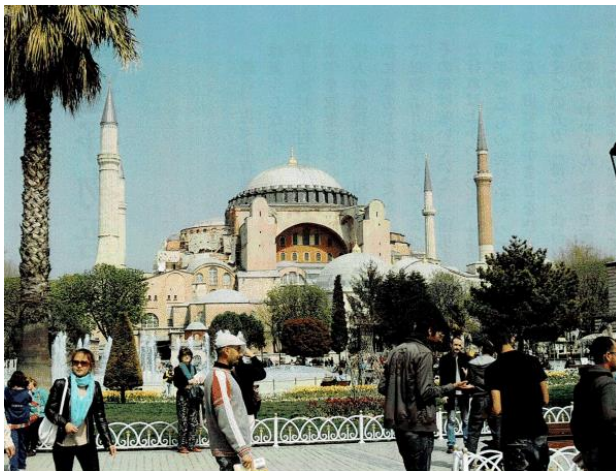
史の長さがみえました。アヤソフィヤは歴史博物館になっていて多くの観光客がいました。トルコは食べ物も食べられますし、タクシーにも安心して乗れました。いつも現地の食事がだめなので、バックは食品で重量オーバーになります。現地のタクシーを安心して乗れたのはイスタンブールとソウルとシンガポールだけでした。最悪はインドでメーターは付いていないのですが、車とコードが繋がっていないのです。料金と行き先は手振りと言葉の英単語を組み合わせて、一人でホテルに帰りました。アジアは日本が一番です。いつかヨーロッパ、ロシアに行きたいと思っていますが、アジアどまりで終わりそうな現時点にいます。



インドのタージマハール



カンボジアのバンテアイ・スレイ寺院遺跡
(アンドレ・マルローが女体のレリーフを盗んだ寺院跡)



トルコのアヤソフィア

